

---

# 幻視者と黄金の瞳

Sowelu

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

幻視者と黄金の瞳

### 【コード】

N6779P

### 【作者名】

Sowelu

### 【あらすじ】

空をなびく巨大な存在。少年は確かにその姿を見ていた。

(前書き)

タイトルはファンタジーっぽいような気がするかもですが、アクションも魔法もあります。ちょっと失望させてしまうかもしれませんが。

夜道を歩き我が家へと向かう。残暑もだいぶなくなり冬の到来も近づきつつあるため、夜風はとても冷たい。現在通っている高校が家から歩いて通える距離であるのが唯一の幸いだ。歩きながら空を見上げる。今朝は曇り空だったが夜になると雲たちが密集することはなくなっており、静かに漂っていた。ちよつと立ち止まって、その流れを見る。

またアレに出会うことができるかもしれないから……

僕は青空を漂っている雲も、夜空を漂う雲も嫌いではない。そして月が光り輝いている夜に漂っていたら、もう何も言うことはなかった。太陽に照らされる雲より月明かりの方が神秘的に見えるのだ。高校生にもなって、雲を見ることが好きだと言ったら笑われるだろうか。しかし、僕が雲を見ることが好きなのは事実である。中学に入学した頃の頃、クラスメイトに話したら変な噂を流されて一時期周りから敬遠されたから、高校に入ってからはその話をしたことは今のところない。中学を共にした友人もこの高校には数多くいるが、すでに忘れてしまったようだ。僕だって友達の数は減らしたくないので、やぶ蛇は避けている。

正確に言うと僕はあの水蒸気の塊である雲自体が好きではないのだ。これも笑われるかもしれないな。

僕が好きなのは雲によって形作られていくファンタジーな生き物たちだ。そうよくゲームや映画などでみられる僕らの世界には存在しない幻獣が好きなのである。

雲を見ていると僕には、あるものは巨大すぎる魚に見え、あるものは雄々しい鳥に見えた。雲という僕ら地上の生き物には大きすぎるものが、獣の姿に見えることで圧倒的な存在に見える。もし、あれらが実体を持って襲ってきたら地上に存在するあらゆる力を駆使

しても対抗することなどできはしない。何という圧倒的な存在か！  
大きな力に恐れと憧れを、僕は雲に感じていた。

歩いて帰るいつもの帰り道。部活が終わった後に見る空は、夕焼けの時も夜空の時もある。だけど大会の近い最近は、夜空ばかり。

そして僕はある日の夜空にアレを見たのだ。

いつだったかは覚えていない。その日も雲がゆるやかに流れ続け、どちらかといえば空には青色が多い日だった。夜の空は星空と月の光がきらきら光り、雲が流れていた。

月が、上弦の月だったのが最高の条件だった、っていうのはアレを見た瞬間に気付いたんだけど、僕は自分で自分が、運がいいと自信を持って言える。

携帯のカメラではフレームにはまらないし、ただでさえ人間の肉眼でしかその姿はうまく映らない。誰かに電話して一緒に空を見ようと言いたかったけど……。やっぱりおかしなやつだと思われるだろうし、あの生物を見ているのは僕だけだと思ったら、特別な気分になった。

あの日の夜も、いつものように空を見上げ雲と星を見る。今日の雲はどんな幻獣かなと思っていたその時だった。月の光が、雲によってできた穴から地上へ降り注いだのだ。そしてはつきりと空に映った。

がっしりとした体軀からはえる長い尾は、先を尖がらせ波打っていた。トカゲのようにも見える頭は、それよりも遥かに迫力のある骨格をしており、勇ましい角をはやしている。そしてその角は背中から尾の先まで荒々しき山脈のように生えそろうっていた。雄々しき翼を広げ、星空を飛行する凄然とした姿。

そして何より特徴的なのが、

鋭く切れがあり、燦々とした光を放つ

『黄金の瞳』

空に君臨するのは幻獣の王。

ドラゴン

黄金の瞳をしたドラゴンを、空に見たとき、あれほどはつきりとした姿を映したことは今までなかった。本当にそこにいるのではないかと思ったほどだ。あとひと手間魔法が起きたら実体になっていたかも。ひと手間の魔法を起こすことなんて僕には無理だけど。

でもあの時の興奮が忘れられなくて、僕は、また空を見上げる。

あの凄然とし畏敬をも覚える存在に再び会いたいから。

(後書き)

いかがでしたか。ちなみに私はこのような雲を一度だけ見たことがあり、大変興奮しました(笑)。ちよつと変人ですよね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6779p/>

---

幻視者と黄金の瞳

2010年12月31日00時38分発行